

ベートーヴェンなんて ぶっとばせ!?

ホントはすごい、音楽史を支えた 知られざるボヘミアの作曲家たち vol.1

Program

F. ベンダ：フルートと通奏低音のためのソナタ ニ長調

František BENDA: Sonáta D dur pro flétnu a basso continuo

A. レイハ：フォルテピアノのための36のフーガより

Antonín REJCHA: Fugy pro fortepiano (výběr)

J. K. ヴァニユハル：フルートと通奏低音のためのソナタ ト長調

Jan Křtitel VANHAL: Sonáta G dur pro flétnu a basso continuo

A. レイハ：フルートとフォルテピアノのための

デュオ・コンチェルタンテ ニ長調 作品103 ほか

Antonín REJCHA: Duo Concertant D dur pro flétnu a fortepiano op. 103

2016年

11月15日(火)

19:00 開演 (18:30 開場)

京都コンサートホール
アンサンブルホールムラタ

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26

地下鉄烏丸線「北山」駅下車③番出口より南へ徒歩5分

京都・プラハ姉妹都市提携20周年を記念して、**全席ご招待**いたします。
(要申込・全席自由)

●申込方法：はがき、FAX、もしくはWEBにて①住所②氏名③年齢④電話番号⑤申込人数(1名か2名)を明記のうえ、下記までお申込みください。

●申込先：〔はがき〕〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26 京都コンサートホール内
「京都・プラハ姉妹都市提携20周年記念コンサート」係

〔FAX〕075-711-2955 「京都・プラハ姉妹都市提携20周年記念コンサート申込」と明記ください

〔WEB〕京都コンサートホールウェブサイト公演詳細ページの申込フォームより送信
<http://www.kyotoconcerthall.org>

●申込期間：9月1日(木)～10月15日(土) 当方必着

※応募は、おひとり様はがき、FAX、WEBのどれか1通のみ。1通で2名様まで応募可能。

※応募者多数の場合は抽選(当選者の発表は、10月25日(火)までに入場チケットの発送をもってかえさせていただきます)。

*未就学児のご入場はご遠慮ください。

*都合により曲目など内容を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

主催：京都・プラハ姉妹都市提携20周年記念事業実行委員会、京都市立芸術大学

共催：京都市、京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

後援：チェコ共和国大使館、日本チェコ友好協会、関西チェコ/スロバキア協会

お問合せ：京都コンサートホール TEL 075-711-2980 (10:00～17:00) 第1・第3月曜日休館(休日の場合は翌平日)

Jaroslav Tuma / Cembalo, Fortepiano



ヤロスラフ・トゥーマ
(チェンバロ・フォルテピアノ)
プラハ音楽アカデミー教授
京都市立芸術大学客員教授

Yoshimi Oshima / Flute



大嶋義実(フルート)
京都市立芸術大学・大学院教授

プラハの街にきらめく黄金のデュオ

チェコを代表する世界的オルガン・チェンバロ奏者ヤロスラフ・トゥーマとプラハ放送交響楽団首席フルート奏者を務めた大嶋義実、東欧の民主化以前より親交を結び、プラハを拠点に活動を開始しました。以後、デュオを組んで30年近く共演が続いています。これまでプラハの春国際音楽祭をはじめとするヨーロッパ各地の音楽祭に度々招待されるほか、その演奏はチェコ国営放送でも頻繁に放送されてきました。また、プラハのレーベルからも多数のCDがリリースされています。

本コンサートは彼らが今年6月にプラハで開催した「京都・プラハ姉妹都市提携20周年記念コンサート」を京都で再現するものです。^{アジア ヨーロッパ}東・西の古都に育まれた友情の調べが京都の秋を彩ります。

ヨーロッパの音楽史を支えたボヘミアの作曲家たち

日本ではクラシック音楽といえばバッハやベートーヴェンを生んだ国ドイツのイメージがあります。ところが実際に当時のヨーロッパで人気を博していたのは、ボヘミア（チェコ）やイタリアの音楽家達でした。とりわけプラハを^生京とするボヘミアは《ヨーロッパの音楽学校》とまで称されるほどに、次々と優れた音楽家を輩出する地域でした。

フランチェスク・ベンダ（1709-86）はフリードリヒ大王の下、ベルリン郊外のサンサーシー宮でコンサートマスターを務めました。ヤン・クジテル・ヴァニユハル（1739-1813）はウィーンで大人気を博し、ハイドン、モーツァルトらと弦楽四重奏を楽しみました。アントニン・レイハ（1770-1836）は、15歳からベートーヴェンと共に学び、同じオーケストラで演奏しました。彼らは友人であると同時にライバルでもありました。まさか後にベルリオーズやリスト、フランクらを教えるパリ音楽院教授アントワーヌ・ライシャが、プラハ生まれのチェコ人レイハその人であることを知る人は今も少ないようです。

こうしたボヘミア出身の作曲家たちが、実はヨーロッパの音楽史を支えてきたのです。

プラハで制作された美しい楽器

フルートとの共演に使用されるフォルテピアノとチェンバロは、プラハ郊外に工房をかまえるマクノルティ氏とヴィフナー・レク氏制作の楽器です。

フォルテピアノは、19世紀初頭レイハも暮らしたウィーンで工房をかまえていた「ワルター・ゾーン」のレプリカです。ワルターはベートーヴェンが愛奏した楽器としても知られています。チェンバロはアイゼナハのバッハの生家に展示されているモデルをコピーしたものです。当時の楽器同様、弦をはじく爪には白鳥の羽根が用いられており、繊細で美しい音色を奏でます。



Profile

ヤロスラフ・トゥーマ（チェンバロ・フォルテピアノ） Jaroslav Tůma - Cembalo, Fortepiano

プラハ音楽アカデミー教授を務め、ハーレム他の主要国際コンクールにも度々審査員として招聘されるなど、オルガンをはじめとするヨーロッパにおける歴史的鍵盤楽器の復興をけん引するリーダーの一人。バッハのオルガン・チェンバロ作品はもとより、クラヴィコードによる「平均律クラヴィア曲集」「ゴールドベルク変奏曲」、フォルテピアノによるハイドン、レイハ、トマーシェクの作品集、「ボヘミアの歴史的オルガンシリーズI～IV」、など多数のCDをリリース。ソロイストとして多彩な活動を展開する一方、近年は作曲にも取り組み、17世紀ボヘミア古様式にのっとり作曲されたミフナのテーマによる「聖なる愛の迷宮」を出版、CDとともにヨーロッパ古楽界に大きな話題を提供した。京都市立芸術大学客員教授。

大嶋義実（フルート） Yoshimi Oshima - Flute

プラハ放送交響楽団首席フルート奏者、群馬交響楽団第一フルート奏者を経て、現在京都市立芸術大学・大学院教授。音楽学部長を務める傍ら、京都子どもの音楽教室長を兼務している。

日本音楽コンクール、日本管打楽器コンクール等国内外のコンクールに入選入賞。日本人フルーティストとして初めて「プラハの春国際音楽祭」に出演し、各地の音楽祭にも度々招聘されている。13枚のCDをリリースし、2008年に発表された「モーツァルト・フルート四重奏曲全曲&協奏曲第1番」はヨーロッパの主要音楽誌上においていずれも最高票を獲得。仏ディアパソン誌上では「モーツァルト信奉者たちを統合するための全てを備えている」と賛辞を呈された。エッセイ集「音楽力が高まる17のなに？」も好評を博している。京都市芸術新人賞、藤堂音楽賞の他、受賞歴も数多い。

2016年6月11日 プラハ市植物園内の聖クラウラ教会にて。
門川大作京都市長、在チェコ日本大使館の山川鉄郎大使らも拝聴。

京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ



〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26（地下鉄「北山駅」①③番出口南へ徒歩5分）

お問い合わせ

☎075-711-2980

（10:00～17:00）

第1・第3月曜日

